



市子連だより

第44号

令和元年11月

発行：米子市子ども会連合会

事務局：米子市加茂町1丁目1番地

米子市福祉保健部 こども未来局 子育て支援課 児童青少年係内 TEL (23-5439)

《子ども会インリーダー育成研修（夏の自然体験合宿）》

（7月6日(土)～7日(日) 船上山少年自然の家）

インリーダー育成研修生16人、ジュニアリーダー15人が船上山少年自然の家にて1泊2日の夏合宿を実施しました。

入所してから、KYTを行い、ライフジャケットを着用して、谷川までダム沿いに新緑の山道を歩きました。谷川に到着してターザンロープを使い、谷川に飛び込み、水の冷たさに驚きながら挑戦を続けました。大きな岩のゴロゴロした谷川を登る冒険をし、鱒返しの滝で滝壺ダイビングができました。午後は、冒険教育を学び、目標に向かい班で協力した活動になりました。夜はトレジャーハントで、班員が協力して様々なゲームをクリアし宝を発掘して最後にサイリウムで光の輪が心に残る活動になりました。翌日はドキドキ写真展という班毎にテーマに沿ったストーリーを写真で語らせる企画で、班の協力を深め、カプラを楽しみ、ふりかえりをして盛りたくさんのスケジュールを終えました。

自然の谷川探検、室内の冒険教育、ドキドキ写真展と霧の山中での活動が効率よく安全に実施できました。インリーダー達の仲間づくりができるよう、ジュニアリーダーも事業の目的を意識した支援をしていました。特に新しい事への挑戦が仲間と協力してできたことが今後の子ども会でのリーダーとしての活動に繋がっていくと思います。



《鳥取県子連・米子市子連共催 前期育成者研修会 開催》

（7月21日(日) 米子市立図書館）

講演会「私の歩んだ道～見えないから見えたもの～」を開催しました。

講師は、NPO法人ヒカリカナタ基金代表で元岡山県立岡山盲学校教頭の竹内昌彦氏です。

病気の影響で8歳で光を失い、400人に1人という視覚障害者としての人生を語られました。小学校でのいじめや差別等の悲しい体験、素晴らしい先生との出会い、就職への悩み、自らも障がいをもつ長男の父親になったこと、その長男はわずか7年で旅立っていったこと、など、自身の経験をもとに、感情豊かに岡山弁で講演していただきました。命を大切にすること、障がいへの理解、どんなときも前向きに歩いていくこと、を学びました。講演会后、グループに分かれて、意見交換会をしました。



【視覚障害者から皆さんへお願いします。】

- ① 点字ブロックの上に自転車等の障害物を置かないでください。
- ② もし困っている視覚障害者を見かけたら、迷わず声をかけてください。

《子ども会インリーダー育成研修（岡山県子ども会との交流）》

（9月8日（日） 鳥取県立武道館 ）

岡山県子ども会がミステリーツアー事業の一環で米子市に立ち寄られ、米子市子ども会との交流をしました。岡山県 110 名の子ども達と米子市 30 名の子ども達がレクリエーションを通して、コミュニケーションを図り、短時間でしたがとても楽しい交流ができました。

米子市の子ども達は事前準備をし、おもてなしの心で迎える良い活動となりました。

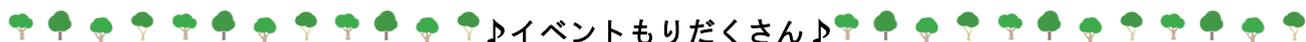


《米子市子ども大会》

（10月19日（土）米子市加茂体育館）

米子市子ども会インリーダー育成研修生 20 名の 4 班、各地区の 5 ブロックと、鳥取大学の 10 団体チームが米子市子ども大会を実施しました。準備会もインリーダーが熱心に活動の事前話し合いをして、準備を進め、本番に臨みました。

朝から小雨が降り、天候不順なので会場を加茂体育館に変更しての実施でした。インリーダー生による開会式もスムーズにでき、各ブースも順調にスタートしました。子ども大会企画運営した子ども達も行列ができる盛況ぶりに臨機応変に何とか対応できたようです。室内で行うことによる広さ、集客など心配しましたが、延べ約 500 名の賑わいを創出できて、天候を気にせず、けがも事故もなく、子ども達の思いが実現できた良い体験となって企画運営した子どもたちの成長を感じた子ども大会になりました。



♪イベントもりだくさん♪

★お菓子な釣りばり★



★たたいて、かぶってジャンケンポン★



★ハチマキバトル★



★ひとでストライク★



★マンポダンス★



★紙コップシュート★



★紙皿フリスピー★



★鳥取大学★



『市子連だより』はホームページでもご覧いただけます。
<http://www.city.yonago.lg.jp/8889.htm> （バックナンバーもご覧いただけます）